



[平成30～34年度版]

# 秋田県立 ゆり支援学校教育プラン

## I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

### 1 児童生徒数の緩やかな減少と、一人一人の教育的ニーズを踏まえた教育課程の編成

本校は平成11年4月に開校(児童生徒数42名)、平成19年度には102名(最大)となったが、近年は90名前後で推移している。

今後は由利本荘・にかほ地区の児童生徒数の減少が進み、緩やかな減少が予想される。児童生徒の構成は、全校の半数以上を高等部生が占める状況が続いている。障害については、今後も小学部には重度知的障害や肢体不自由を併せ有する児童が、中学部、高等部には特別支援学級や通常学級から軽度な知的障害や発達障害、精神疾患などを有する生徒が入学することが予想される。

そのため、小学部から高等部まで一貫した教育を行うとともに、外部からの入学・転入学者の障害特性を踏まえた教育内容や支援が求められる。

また、児童生徒数の減少や生活スタイルの変化により寄宿舎の在籍数も減少することが予想されるため、これからの寄宿舎の在り方についても検討が必要である。

### 2 コミュニティ・スクール(以下CS)を核とした学校づくり

これまで、地域の幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流、部活動などの交流を積み重ねてきている。また、近年、総合的な学習の時間の一環として地域応援活動「みんな元気プロジェクト」に取り組み、地域のニーズに応え、奉仕活動や環境整備、作業学習交流、販売活動を通して地域との関わりを広げてきている。

この関わりを双方向のものとし、地域と役割分担や相互補完しながら共通の目標を達成するために県内特別支援学校初のCSを活用した学校づくりが求められる。

さらにCSを通して、関係者以外の一般の方々に本校の教育活動や特別支援教育について理解啓発するとともに、卒業生の社会生活への円滑な移行を目指す。

### 3 社会情勢・生活様式の変化、障害の多様化に対応した生徒指導、進路指導の充実

スマートフォンの普及、それに伴うSNS上のトラブルの増加など軽度な知的障害をもつ生徒の生徒指導に新たな要素が加わり対応が難しくなっている。また、地域に事業所新設が進まず、福祉的就労・福祉サービス(生活介護等)や就労継続支援B型の進路確保が年々難しくなっている。

### 4 地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、高等学校のニーズに応じたセンター的機能の実施及び充実

小・中学校等において、特別な支援を必要とする児童生徒が在籍した際の適切な対応の在り方に関する助言が求められている。さらには幼稚園・保育所を含む就学前の幼児や高等学校からの相談等も増加している。関係機関や特別支援教育コーディネーター等との連携や自園・自校で解決できる相談・支援体制の確立を促すための支援を提供する必要がある。

## II 目指す方向性・学校像や児童生徒の姿

### ○目指す学校像 ～地域と共に歩み、地域で育ち、地域に必要とされる学校～

- ・自立と社会参加を目指し、教育的ニーズに応じた適切な教育活動を展開する学校
- ・CSを活用し、特色ある教育活動を推進するとともに、地域交流・地域貢献を通して地域を元気にする学校

### ○目指す子ども像

- ・元気な子：心身共に健康で楽しくのびのびと生活する児童生徒
- ・がんばる子：興味や意欲をもって、主体的に最後まで活動に取り組む児童生徒
- ・おもしろい子：友達を大切に、協力しながら活動する児童生徒

### Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

#### 目標 1 自立と社会参加を目指し、CSを核に、地域のニーズや特色を踏まえた教育活動の充実

##### 取組(1) 一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成

- ① 卒業後の自立と社会参加、豊かな地域生活を目指した教育活動の構築
- ② 重複障害児の指導・支援方法の検討
- ③ 軽度な知的障害や発達障害等の障害特性の理解促進と情報共有

##### 取組(2) CSを活用した地域の特色を踏まえた教育課程の編成

- ① 地域、労働、福祉、教育等、様々な分野からなる学校運営協議会委員と連携した教育活動の展開
- ② 地域交流や居住地校交流、交流及び共同学習の推進
- ③ 市内小・中学校との連携推進

##### 取組(3) 一人一人の卒業後の豊かな生活を目指した授業実践

- ① 社会的要請及び教育的ニーズを踏まえた研究主題の設定と全校研究会(年間3回)の実施
- ② 指導助言者を招へいした全校授業研究会や学部授業研究会の開催
- ③ 授業デザインミーティングの実施と授業改善シートや授業改善アドバイザーの活用
- ④ ねらいや支援・手立ての明確化と評価を積み重ねる授業の実践
- ⑤ 外部専門家(言語聴覚士、理学療法士、作業療法士等)、及び道川分教室職員を活用した教師の専門性の向上
- ⑥ 教科(音楽・美術・保健体育等)及び部活動(スポーツ・文化芸術活動)を通じた生涯学習への意欲向上

##### 取組(4) キャリア教育及び進路指導の充実

- ① キャリア教育全体計画及びキャリア教育指導内容表の年度ごとの更新
- ② 小・中学部、高等部での計画的・系統的な体験学習の実施(年間各20時間以上)
- ③ 高等部におけるデュアルシステム型現場実習の実施(毎年3人以上)
- ④ 地域の特産品を生かした作業学習製品や食品加工製品の開発
- ⑤ 寄宿舎を活用した基本的生活習慣の確立及びライフキャリアを形成する力の育成

#### 目標 2 質の高い特別支援教育の展開と、一人一人の教育的ニーズに応えるセンター的機能の充実

##### 取組(1) 幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実

- ① 特別支援教育セミナー等、学校訪問を通しての情報提供及び助言
- ② 自校での課題解決に向けた校内支援体制充実への支援
- ③ 障害のある児童生徒に対する個別の指導内容・方法に係る相談対応・助言
- ④ 知能検査等による児童生徒の障害特性の把握と指導方法への助言
- ⑤ 特別支援教育アドバイザー配置による相談機能の充実

##### 取組(2) 関係機関との緊密な連携による地域の特別支援教育の充実

- ① 由利本荘市・にかほ市特別支援連携協議会の開催による情報共有
- ② 幼保コーディネーター研修や特別支援教育支援員研修等への協力

##### 取組(3) 学校における学習指導及び生涯にわたる支援の充実

- ① 労働、福祉、医療、教育等関係機関の連携による支援を効果的に実施する個別の支援計画の作成
- ② 個々の教育的ニーズに対応し、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ個別の指導計画の作成と改善
- ③ 個別の支援計画及び個別の指導計画を有機的に活用するシステムづくりの推進